



幼児の遊びを充実させるためのカンファレンスの工夫

東吾妻町立さかうえこども園では、幼児の遊びを充実させるための効果的なカンファレンスを目指し、カンファレンスシート（計画用と評価・反省用）を活用しています。その結果、環境の構成や援助について共通理解しやすくなり、3学年が連携した保育の実践につながっています。

その結果、次のような幼児の姿が増えてきました。

- ・友達とぶつかり合うことも経験しながら遊ぶ姿
- ・自分で好きな遊びを見付け、様々な友達とかかわって遊ぶ姿
- ・遊びがうまく進まなくても諦めずに伝え合い、話し合おうとする姿



○実践の紹介

計画用シート

- ① 環境の構成図・育てたい力
- ② この遊びの中で経験させたいこと
- ③ 必要な道具・材料（最初に出しておく環境）
- ④ 幼児が自分で工夫できること（場所・道具・材料）
- ⑤ 特に意識したい幼児とその対応（共通理解）



評価・反省用シート

- ⑥ 実際に経験できた項目、姿を線で結び計画と比較
- ⑦ 遊びの振り返り、幼児の姿・経験・課題等
- ⑧ 反省点や課題について考えられる理由
- ⑨ 解決のための新たな環境・材料・アイデア（環境の再構成）
- ⑩ 評価・反省後の保育の姿や結果（次の計画につなげる）

カンファレンスシート（共通環境構成・援助 計画用） 遊び【 運動会ころこ 】

＜絵図・写真＞

①

3歳児 教師との信頼関係
言葉の詠書が増える
友達が集まって遊ぶ場
友達のかかわりを楽しめる

4歳児 友達とかかわれる遊び
友達と言葉でやりとりできる
友達の必要性が感じられる遊び
友達の気持ちに気付ける

5歳児 友達が集まる必要を感じられる遊び
友達とぶつかり合う経験が出来る遊び
友達と協力して遊ぶ経験が出来る遊び
友達と協力して遊ぶ経験が出来る遊び

この遊びの中で経験させたいこと

3歳 運動会の再演を再現しながら遊ぶことを楽しんでほしい
見てきた競技を真似たりおどしたりしてほしい

4歳 運動会を再現して遊ぶ中で、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでほしい
いろいろな経験にふれ、友達と楽しんでほしい

5歳 小学生の姿を思い出し、それをもとに自分でも再現しようとしていたり、排他行動が出来るようにしてほしい

必要な道具・材料（教師が最初に出しておく環境）

玉入れの道具・玉
ライン
大玉

幼児が自分で工夫できる場所・道具・材料（子ども達が何を）

チームを分ける方法（分け方・固定など）
ビブス
ばねまき
ライン

特に意識したい幼児とその対応

3歳 みんなと同じ場で遊んでほしい

4歳 同じ遊びやその場の雰囲気を感じてほしい

5歳 月齢の異なる経験した友達の気持ちに気付ける

歳児毎の育てたい力を明確に示し、どの遊びや環境で経験できるか線で結んでいます

3学年分を1枚のシートに表現していることは、連携のしやすさはもちろん、先生方の負担軽減にもつながっています

カンファレンスシート（共通環境構成・援助 評価反省用） 遊び【 運動会ころこ 】

＜絵図・写真＞

⑥

3歳児 興味のあるものには加わる

4歳児 友達とかかわれる遊び
友達と言葉でやりとりできる
友達の必要性が感じられる遊び
友達の気持ちに気付ける

5歳児 友達が集まる必要を感じられる遊び
友達とぶつかり合う経験が出来る遊び
友達と協力して遊ぶ経験が出来る遊び
友達と協力して遊ぶ経験が出来る遊び

この遊びでの様子（評価・反省・見えた課題）

3歳 興味のあるものには加わる

4歳 友達が集まる必要を感じられる遊び
友達とぶつかり合う経験が出来る遊び
友達と協力して遊ぶ経験が出来る遊び
友達と協力して遊ぶ経験が出来る遊び

5歳 自分の方針はあるが、全体が見えない姿も見られる
勝負もあるがそこにあまりこだわらず、小学生の国技技のようになっている、できる喜びを感じている

反省点・課題について、考えられる理由は？

教師 友達が集まる必要を感じられる遊び
友達が集まる必要を感じられる遊び
友達が集まる必要を感じられる遊び

解決のための新たな環境・材料・アイデア（環境の再構成）

遊びの中身を広げたりしやすい環境として、マイク放送系のコーナーを設ける

結果

友達の意見や言葉を聞く、聞いてやる部分に意識が向いていない様子がある
小学生の憧れが強い

チームの中で、友達が見えなくなると、友達と協力して遊ぶ経験が出来る遊び

勝負は、チームで喜びが

評価・反省で出てきたことを再構成につなげています

次の計画につなげています

カンファレンスシートを活用することで

- 環境構成やねらいを図式化することで、準備の仕方や幼児の動きがイメージしやすくなった。
- 他学年の幼児へのかかわり方や担任の意図がわかり、援助の面で連携しやすくなった。
- 担任間で様々な意見や考えを出し、聞き合うことが出来るようになった。その結果、自分とは違った考えに触れ、援助の仕方考え合えるようになった。
- 幼児の実態の捉え方や共通理解が深まり、実態と計画につながりもてた。また、幼児の育ちにとって必要な援助を考えることができ、援助の質的な向上につながった。

共通理解や協働、人材育成の場にもなっています